

児童書と翻訳

「世界の本を伝える仕事」



令和2年7月31日(金)～11月2日(月)
多摩市立図書館本館

『絵本翻訳教室へようこそ』

灰島かり／著 研究社 (801.7)

絵本翻訳の心構えやテクニックを伝える入門書。絵本の翻訳は制約が多い反面、翻訳者に任せる自由度も大きいなど、具体的な授業の様子が書かれています。

『この本読んで 2019春』

出版文化産業振興財団 (996)

特集「何度でも読みたくなる名訳絵本」が掲載。皆さんのお気に入りの一冊がきっとみつかります。

『大人に贈る子どもの文学』

猪熊葉子／著 岩波書店 (990)

児童文学研究者として英語圏のすぐれた作品や評論の翻訳に情熱を注いできた著者。子どもの文学の価値を大人たちに知ってもらいたいと願い綴ったエッセイ集。

『翻訳絵本と海外児童文学との出会い』

松居直／著 ミネルヴァ書房 (996)

『こどものとも』の創刊に携わった「編集職人」の著者。石井桃子さんとの交流、海外の絵本を翻訳出版したエピソードが書かれています。

『心に緑の種をまく -絵本のたのしみ-』

渡辺茂男／著 新潮社 (995)

「心に緑の種」をまいてくれた絵本。絵本の与えてくれる喜びを、親である自分と子どもたちが分かち合う幸せについて、名作絵本の紹介と共に綴っています。

『BOOKMARK 翻訳者による海外文学ブックガイド』

金原瑞人／編 三辺律子／編

CCCメディアハウス (902.3)

翻訳物っておもしろい！

「眠れない夜へようこそ」「本に感動・映画に感激」など各テーマに沿って翻訳者自身が本を紹介。面白さがダイレクトに伝わります。

『石井桃子のことば』

中川李枝子／ほか著 松居直／ほか著 松岡享子／ほか著

若菜晃子／ほか著 新潮社 (910.268 1)

石井桃子さんが翻訳した「熊のプーさん」は、戦時中にもかかわらず本になり、日本の人々の心を暖かく励ますことになりました。本づくりとともに生き、ことばのもつ力を信じていた自身の珠玉の「ことば」が勇気づけてくれます。